

## 社会工学研究科

学生数の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
3年次 編入学	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	( )	( )	( 5)	( 5)	( 5)	( 5)	( 7)	( 3)	( 4)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	22 ( 22)		16 ( 5)		- ( 2)		- ( 9)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	24 ( 18)			28 ( 26)			1 ( 1)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	5 ( 3)	2 ( -)	3 ( 1)	3 ( -)	3 ( 1)			
	退学者	1 ( 1)	3 ( 1)	( 1)	( -)	3 ( 1)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・( ) は前年度の数値を、 は外国人留学生を内数で示す。

### 1 社会工学研究科の活動

運営面では、新旧両研究科並存に起因する煩瑣な作業と会議の増加とが問題であり、従来研究科教員会議の審議に委ねていたいくつかの事項を本研究科運営委員会に付託することによって対処するようにしている。

教育面では、学生の学位取得を促すべく、学位論文執筆の初期段階で指導教官以外の研究科教員の意見を求めるために平成13年度から始めた4年次演習を継続して実施している。また、在学生を対象に教官との懇談会を何度か設け、論文執筆についてのガイダンスなどを行った。

### 2 教員の教育業績評価の状況

本研究科教員の所属する学系では、研究業績と並んで博士、修士の学位授与数などの教育業績も人事評価の対象となっている。そのため研究科では独自の教育業績評価システムは確立していない。ただし、指導学生の学位取得数は、教員の指導力と学生の能力の両者の結果であり、その数字のみを云々すべき性質のものではないことに留意している。

### 3 自己評価と課題

今年度は16件の学位を授与し、学位取得者のほとんどが大学や研究機関に職を得ていることは、本研究科の教育の成果と評価できる。一方、博士課程委員会の解消に向けて在学生の転研究科を視野に入れておくべき時期に来ている。平成14年度末現在、学位論文予備審査合格や中間評価合格から論文執筆準備中まで、学生毎の学位論文完成への道程には大きな差があるが、状況把握のための予備的調査によると、約6割の学生が平成15年度中に学位取得を目指している。この学生諸君が滞りなく学位を取得できるように対処すること、平成15年度中に学位取得に至らなかった学生諸君の学位取得を促すこと、さらに転研究科の必要な学生には単位認定などの適切な措置を講じることなどが、当面の課題であり、平成15年度当初から準備を始める計画である。